はるかな尾瀬

ー目　次ー

02　特集①　尾瀬に暮らして（縦・横・点）

04　特集②　尾瀬をより楽しむために

06　現地情報　原をわたる風だより

07　　おこじょだより

08　トピックス　尾瀬保護財団の活動紹介　『オオハンゴンソウの繁茂状況調査』

09　尾瀬ボランティア情報

10　尾瀬保護財団からのお知らせ

2024.12 vol.56

（公財）尾瀬保護財団

白澤 滋民　「下の大堀川　水芭蕉のビューポイント」

特集❶ 尾瀬に暮らして（縦・横・点）

尾瀬山の鼻ビジターセンター　令和6年度管理員　志賀　絵都子

ほんの少し雪の残る山ノ鼻に入山したのは今年の5月9日。期待と不安をないまぜにして詰め込んだ重いリュックを背負って、鳩待峠から石段を下って行く。小さな沢をいくつか渡り、徐々に勾配がなだらかになってきた。木道沿いに大きく立ち並ぶ木々の林を抜けたその先に、三角屋根が見え始める。「あ～～あれがビジターセンターか～～」と思わずつぶやき、そして少しほっとした。「やってきたんやなぁ～～from OSAKA!!」

その日の夕方、小さなミズバショウの写真を撮った。そこから「尾瀬」と向き合うことになる。

「縦・登る」

山が好きで時間を見つけては山に登ってきたが、いつしかそれが高じてクライミングを始めた。私が好むクライミングは、一ヶ所の岩場（ゲレンデ）でパートナーに確保してもらいながら一つのルートを登りきる「フリークライミング」である。一日中同じゲレンデに留まりひたすら昇り降りを繰り返しトップアウトを目指す。

パートナーが登る時は、集中してパートナーの動きを見てビレイ（確保）しているが、目の端にはその先の空と雲、飛んで行く鳥、風に揺れる木々、時には降る雨や雪、刻々と変わるその様子も映る。休んでいる時は、他のクライマーの登りを見たり、岩を見て攻略法をイメトレしたりしながら、狭い岩場（ゲレンデ）を行き来している。そうしているうちにいつしか一日が過ぎ、朝から夕へ変わりゆく景色を感じる。

クライミングを続けている理由として、登り切った時に見ることができる終了点からの眺め、それを見られた時の達成感はもちろんの事、一ヶ所に留まり、一日中そこに居て過ごす心地良さに、心惹かれている気がする。そこで見上げた空の雲、陽の傾き、鳥の声、木々のざわめき、風の向き、時の流れを感じることで、とても満たされた気持ちになるのである。

「横・歩く」

初めて尾瀬を訪れたのは何年前だろうか、と振り返ってみるがそれさえもはっきりと思い出せない。クライミングを始めた頃より、更に前、季節はたぶん秋だったように思える。

山の先輩に連れられて至仏山を登ったのか、燧ヶ岳を登ったのか…覚えているのは木道を歩きながら見たどんどん大きくなる山容と、麓に小さく見える小屋。広い湿原からまっすぐ続く木道、その先に山に吸い込まれるように続く登山道。

それは六兵衛堀を越え、見晴を通り、燧ヶ岳に向かう景色にも思え、あるいは上田代を抜け、山ノ鼻から研究見本園を通り、至仏山へまっすぐ向かう道のようにも思える。

印象としては山頂から見た景色や登山道の様子より、湿原を渡る風、見上げた広い空、流れてゆく雲、どこまでも続く木道、裾野まで見える大きな山の姿。

その頃よく訪れていた、北アルプスとはまた異なる「たおやかな風景」にとても心惹かれた。ベンチや山小屋でくつろぐハイカーたちを横目に、「ここでのんびり、ゆっくり時を過ごしたいなぁ～～」と心の中で呟きながら足早に木道を進んだ記憶が、微かに残っている。風が強い。雲の影が湿原をサーっと横切ってゆく。

「点・見つめる」

今、尾瀬で暮らし、日々景色を見つめ、感じて、思うことは、初めて来た時のファーストインプレッションが、今の気持ちと重なるということである。言葉にすると上手く伝えられないのだが。何よりも心惹かれた「たおやかな風景」が日々更新されている。

振り返って、クライミングの狭いゲレンデで一日過ごして「見つめる景色」、初めての尾瀬に来た時に感じた「ここでゆっくりすごしたいなぁ～」という思い、そして今、尾瀬に住んで感じる「たおやかな風景」、心惹かれる景色に出会って見つめていると、自分が静止していて風景がゆっくりと動いている。自分軸に「点」があって世界を見つめている感覚になる。

「尾瀬と私と点」

6月の雨・曇天の下

「ミツガシワ」という名の花を尾瀬に来て初めて知った。湿原に群れて咲くその様子は、霞に煙り、淡く白い小さい花が浮きあがり、とても心惹かれた。尾瀬に咲く花々は、まるで季節の先へ先へと咲き急ぐように、瞬く間にステージが変わってゆく。私が取り残されてゆくような少し心細い心持で花を見つめる。

霧も薄紫の朝焼け色。
聞こえるのは鳥の地鳴きと、木々を揺らす風の音。
朝霧が漂い、空に広がる薄雲が晴れを予感させる。
もくもくと雲が一瞬で立ち、もくもくもく、と空を覆う。
朝霧の中、至仏山へまっすぐ続く木道が、濃い緑の木々にすい込まれていくようにも見える。
朝霧が低く立ち込めワタスゲの果穂がゆれている。
曇り空というより雲の中、一瞬みえた光る池塘。
湿原の花々も朝陽を受け、やわらかな明るい光に包まれる。
雲が薄く広がって陽が陰り、池塘も次第に鈍色に変わる。
雨に煙る花々は瑞々しくふんわりと目に映る。

山の中腹を横切るように、まっすぐにかかる雲。
一本の、木道の、真上に、一本の飛行機雲。
薄い雲越しに陽の光が差し、空と尾瀬ヶ原がほんのり色づいた朝焼け。
白いブラシのような花が、木々の深い緑と相まって、美しく目に映る。
強く風が吹き抜け、次々と薄い雲が流れてゆく、時折、青空が顔をのぞかせる薄曇りの空。
至仏山の上にはレンズ雲が現れる。
薄雲の隙間より、薄い水色の空が見え始める。
吹く風は乾いていて、カラカラとアブラガヤが音を立てる。
雲は高いところで薄く広がり、点在する池塘をめぐるように木道が続く。
東の空に金星と三日月、夕空が朱色に染まった。

70%夕暮れ時

東の燧ヶ岳、西の至仏山、二つの山裾を結ぶまっすぐな木道。誰もいない遅い午後に一人歩いている。東の空から大きな翼の鳥が、軽々羽ばたき、空高くこちらに渡ってくる。歩を止め、首を巡らし、小さくなってゆく姿を目で追う。至仏山の麓で夕暮れの空と、木々の影に重なり見失う。「あの鳥はどこまで飛んで行くのかな」

日々のブログで私が書いたワンフレーズや、目にした景色を短い言葉でつぶやいてみました。尾瀬の「たおやかな風景」が少しでも伝われば幸いです。

特集❷ 尾瀬をより楽しむために

尾瀬沼ビジターセンター
令和6年度副責任者
馬場　大祐

私が尾瀬沼ビジターセンターに勤務して3シーズンが経過しようとしています。尾瀬を楽しむだけの立場から、訪れる人を見守る立場に変わるとは、数年前の自分には思いもしない変化でした。

そんな尾瀬国立公園は、誰もが知る日本有数の自然景勝地で、多くの方がその自然を楽しむために訪れます。しかし、尾瀬を楽しむためには、まず健康な足腰と体力が前提となります。登山口やコースの選択にもよりますが、尾瀬はある意味で「人を選ぶ場所」と言えます。車でのアクセスができないため、すべての移動は自分の足で行う必要があり、尾瀬の大自然は時折、予期しない厳しい一面を見せることもあります。

尾瀬には、整備された木道が多く、初心者にも歩きやすいという印象を持たれることが多いです。しかし、実際には木道の劣化や自然の影響で、危険箇所も少なくありません。現状では、木道の整備が追いつかないこともあり、登山者が「レジャー施設のように整備された山道」と誤解することもあるようです。他にもぬかるみや岩場で不満を漏らし、さらに整備を求める声も時折耳にしますが、自然の中での登山はすべてが予測できるものではなく、むしろ不確実性こそがその魅力の一部でもあります。

特に天候の急変は、尾瀬を訪れる登山者にとって大きなリスクです。晴れていたかと思えば、突然の雨や霧に包まれ、視界が悪くなることは珍しくありません。また、登山中の転倒や体調不良もいつ誰にでも起こりうる事態です。疲労が蓄積して動けなくなる、持病が悪化する、あるいは怪我をすることも考えられます。このような状況に陥ったとき、携帯電話の電波が届かない場合も多く、すぐに助けを呼ぶことができないのが現実です。救助が必要な場合には、山小屋やビジターセンター、消防、警察などが対応しますが、天候や時間帯によってはヘリも飛ぶことができず、救助活動はすべて人力に頼ることになります。思うように人員を確保できない時には、限られた人員の中で救助活動を行うしかなく、負担は大きなものとなります。

以前私が出会ったご年配のご夫婦は、西日本から「死ぬ前に一度尾瀬に行きたい」という思いからやってきましたが、大江湿原から沼山峠に入ってすぐ疲労のためにご主人が行動不能となりました。たまたま遭遇した私が、状況を確認し付き添って行こうとしましたが、気持ちに体が到底ついて行かない状態で、結局背負って行くことになりました。

また5月の三平峠で出会った若いカップルは、一面の残雪の中、スニーカーとサンダル、持ち物はスマホと財布だけという軽装でした。驚く私に大清水から入ったという彼らは、食堂の有無を聞いてきたため、

▲傾斜のある木道は降雪時は滑る

まだ店はどこも開いておらず、これ以上進むのは危険だということを伝え、戻るように進言しました。

こういったことは枚挙に暇がありませんが、このようなリスクを防ぐために、まずは事前の準備が重要です。適切な装備、体調の管理、最新の天候や登山道、施設の情報収集を怠らないことが基本です。ときには、計画を中止し、今回は諦めるという判断も大切です。自分の限界を超えた挑戦をするのではなく、リスクを受容し、その上で安全に楽しむための心構えとリスクマネジメントが求められます。

▲尾瀬沼ビジターセンターの傷病対応セット

しかし、入山の時期や天候によっては、どれだけ準備をしても、尾瀬の自然が持つ危険を完全に防ぐことはできなくなります。例えば、残雪期の滑落、盛夏の熱中症や疲労、晩秋の凍った木道などが挙げられます。これらのリスクに対処するために必要な装備は、雨具や防寒具、アイゼン、ピッケル、行動食や水分、さらには宿泊用具までと、多岐にわたります。荷物が増えることは負担になりますが、これもまたリスクを最小限にするための準備の一環です。特に、登山道によっては水場が少ない箇所もあり、事前に十分な水分を確保しておくことが重要です。

登山を楽しむためには、自分のそのときの体力や技術を正確に把握し、自分に合った楽しみ方をすることが大切です。そして何よりも、自分の足で無事に山を下りることを第一の目標としてほしいと考えます。

尾瀬の美しさを存分に味わい、そして自分の足で安全に帰るためには、しっかりとした準備とリスクマネジメントが不可欠です。自然と向き合い、その厳しさも受け入れることで、尾瀬での時間はより充実したものとなるでしょう。ぜひ、安全第一で尾瀬を楽しんでください。

▲ヘリコプターによる搬送

▲雪の残る燧ヶ岳（5月下旬）

現地情報 原をわたる風だより

今年はかなりの少雪で、夏はかなり気温が上がり34・2℃というビジターセンターでの観測史上最高気温を記録した日もありました。

昨年と同じような気象状況でしたが、昨年と違ったのは水芭蕉やニッコウキスゲは見事な群生となり、ワタスゲも早い時期に開花した割には、霜にも負けず白い果穂の群生が素晴らしかったことです。

今後想定される異常気象にも負けず尾瀬がずっと魅力ある場所であることと、多くの皆さんに尾瀬を楽しんでいただける事を祈っています。

（西澤　政春）

4シーズン目を終えて。

今年は2月に残雪が少なく、昨年のような初夏の花芽への霜害を心配したシーズンインとなりました。しかし、3月後半に降雪があったせいか、雪解けのミズバショウ開花から始まった花のリレーは、過去数年見たことがない花の種類や数に目を見張りました。改めて尾瀬には雪量が大切なことを感じた年となりました。その反面、30℃を超える夏日が3日以上も観測され、地球温暖化の危機も感じました。自然と向き合い、環境を考え、ゼロカーボンを目指した環境づくりを個々に考える社会となるよう、尾瀬の守り人として微力ながら発信していきたいと思います。

（新保　正利）

雪のない開所式からスタートした今シーズンでしたが、遅霜がなかったことが幸いして、同じ花でも2倍以上たくさんの数の花が咲きました。研究見本園では花の群生で、遠くから眺めると湿原が部分的に紫、オレンジ、黄、白などに染まる時期があるほどでした。自然観察会で「尾瀬でこういうお花畑が見たかったのです。」と言うお客様の笑顔を拝見して、たいへん嬉しい気持ちになりました。今年も尾瀬の自然の中で働き、尾瀬が大好きなハイカーさんたちに出会えたことに感謝です。

（渡辺　直子）

大好きな尾瀬の中でも、とりわけ山ノ鼻地区が好きです。ビジターセンターを囲む大きな木々や、きれいで静かな研究見本園、鳥の気配、間近に迫る至仏山の眺め…。この美しい自然は、降水、きれいな空気、太陽、そして尾瀬に関わる多くの人々のご尽力があってこそと感じます。そんな尾瀬で過ごせて幸せです。ビジターセンターにいらしたお客様と、花や山などいろいろなお話をするのは楽しいひとときでした。皆様、ありがとうございました。

（天津　祐子）

雪解けとともに尾瀬に入山してから、あっという間に半年が過ぎました。昨年より、あこがれの尾瀬で働けることになり、尾瀬に関わる皆さまに支えられ、おかげさまで毎日充実した時間を過ごすことができました。尾瀬では、日々季節が移り変わっていきますが、一度として同じ景色は無く、訪れていただくお客様や、花や鳥などの自然との出会いも、ひとつひとつ深く新鮮に心に刻みこまれています。これからも、尾瀬で活動できる幸せをかみしめ、尾瀬のために精一杯頑張ります。半年間ありがとうございました。

（川畑　修）

水芭蕉から始まった季節の花を追いかけるようにして、過ごしてきました。今、見本園では最後のお花エゾリンドウが咲き、草もみじが日々深まり、尾瀬を離れる日が近づいていてくる事を寂しく感じる今日この頃です。美しきこの場所で変わってゆく風景を見つめ、お客様の笑顔に出会い、よき先輩方に助けられ、キラキラ光る楽しき日々を駆け抜けることができました。皆様、本当にありがとうございました。そして「奇跡の湿原、尾瀬ヶ原」にSPECIAL THANKS!!

（志賀　絵都子）

山の鼻VCでの集団生活を通してコミュニケーションやチームワークの大切さを学びました。当初、食事を作るにも時間がかかってしまっていたのですが諸先輩方の手助けや助言をいただき、最近では余裕をもって食事を作れるようになりました。また尾瀬の貴重な動植物との出会いや環境保全活動に参加する中で、豊かで美しい自然風景に心を打たれました。その中で過ごす日々は、私に自然の大切さを教え、成長させてくれました。自然との触れ合いを通じて、環境保護の重要性を実感し、未来のために行動する意識が芽生えました。

（小池　遥紀）

現地情報

おこしょだより

尾瀬のシーズンは、なぜこんなにも早く短く過ぎ去るのか。5月に残雪を踏みしめながら上山し、気付けばもう下山の時期になっている。毎日、尾瀬の素晴らしい景色を眺めながら仕事ができるというメリットもありますが、スーパーもコンビニもないとても不便な環境でもあります。この中で半年間、ビジターセンターを支えてくれた職員には感謝しかありません。尾瀬のシーズンを無事終えることが出来て良かった。また尾瀬でお会いしましょう。

（阪路　善彦）

今年も無事にシーズンを終えようとしています。毎年多くの出会いと思い出を受け、色々なことを勉強させてもらいました。お花の名前を覚えては次の年に忘れての繰り返しですが、学ぶ楽しみで心が豊かになります。いくつになっても学ぶことは楽しいことだと思わせてくれる最高の仕事でした。ここで関わった全ての人に感謝いたします。ありがとうございました。

（馬場　大祐）

今年も下界から尾瀬入りして体重が10kg減った。それと入れ替わるように尾瀬が体に染み込んでくる。体中に尾瀬が染み渡った頃、尾瀬の季節は終わり、入れ替わりに体重が増えていくのだ。ライフサイクルとなってしまった尾瀬のシーズンも10月末で終わってしまう。今シーズンも尾瀬を訪れる沢山の方とお話しし、何度も山を登り、湿原を歩いた。仲間が作るご飯も沢山食べた。でもまだ、もっと上手く尾瀬を紹介し、もっと尾瀬を沢山歩き、もっと仲間のご飯を沢山食べれる気がする。今シーズン尾瀬を訪れ私にお付き合い頂いた方々、ご飯を作ってくれた優しい仲間たち、本当にありがとうございました、そして来年もよろしくお願い致します。

（伊藤　信一）

5月初め、重いザックにあえぎながら、みんなでそろって大清水から上山しました。今期メンバーでの最初の仕事は引っ越しから始まりました。仮の宿舎として使っていた旧ビジターセンターから、昨年の10月に完成した詰所への移動で、各自の部屋作りからのスタートでした。ミズバショウから始まったお花のバトンリレーも早いもので、気がつけば尾瀬の最終ランナーのエゾリンドウが有終の美を飾っていました。来年も尾瀬でお逢いしましょう。

（玉田　英司）

ふと、尾瀬はどこまでが尾瀬なのかと考えることがあります。調査や研究などでは「三条の滝が水を集める範囲を尾瀬」と定義していることもありますが、これでは少し寂しい気がします。新・尾瀬ビジョンでは尾瀬＝尾瀬国立公園＋周辺地域とされています。周辺地域をどこまで含めるのかは難しいですが、人々の心の中に尾瀬があれば、そこは尾瀬といっても良いのかもしれませんね。心の中の尾瀬と本当の尾瀬、どちらも大切にしていきたいものです。

（八幡　直輝）

大江湿原のお花リレーを夢中で追いかけていたら、いつの間にかゴールテープを切っていました。2年目の今シーズン、1年目に比べて2倍速で毎日が過ぎ去っていったように感じます。それだけ充実した毎日を送ることができたのかもしれません。また、怪我や事故、病気とは無縁で、無事にシーズンを終えられることに感謝しています。そして何よりも、尾瀬で生活しながら働くという、突拍子もない（？）生き方を選択した2年前の私にありがとう。

（大内　梨江子）

訪れる方々に安全に尾瀬を楽しんでいただくお手伝いができればとビジターセンター管理員を志望しましたが、未熟なまま半年が過ぎてしまいました。雪が少し残る尾瀬沼に上山後は移りゆく季節の速さと自然には日々、発見がありました。この尾瀬の自然が先人のみならず多くの人達の尽力で守られていることなど知る由もなかったことが多々あり、だからこそ尾瀬が数多の人を魅了し続けているのだと実感しました。暖かく見守ってくださった関係者の方々には感謝しかありません。

（岡本　早智子）

半年間の尾瀬生活が終わります。この半年間、大変豊かな生活を送ることができました。ここで感じた「豊かさ」とは、時間を自分で管理できること、ものを大切に使い切ること、自然の中で生かされている命を実感することです。今までいかに自分が、時間に縛られながら雑に生きてきたか、に気付かされました。限られた物を生かして工夫したり、人間同士助け合ったりしながら暮らすことは、楽しく心地よいと感じました。大自然の美しさや恐ろしさを感じ、動植物の生き方から学ぶこともたくさんありました。ありがとうございました！

（横地　美智子）

トピックス
Topics

尾瀬保護財団の活動紹介

オオハンゴンソウ繁茂状況調査

▶オオハンゴンソウとは？

黄色いお花を咲かせるオオハンゴンソウ。その群生は、夏の日差しによく映えて、緑の中でぱっと明るく目を引きます。しかし、この植物は長年に渡り我々の手を煩わせている存在なのです。

というのも、オオハンゴンソウは外来生物法において、海外を起源とする外来種で、生態系などに被害を及ぼす「特定外来生物」として指定されており、尾瀬もその脅威にさらされているのです。

その繁殖力は非常に強く、根こそぎ引っこ抜いたと思っても、わずかに取り残した根から再生し、他の植物を押しのけて生育していくのです。

ここまで聞いて改めてオオハンゴンソウを見てみると、花弁が垂れ下がったお花は不気味に感じます。

オオハンゴンソウ

▶大規模な駆除作業で根絶を目指す！

当財団では毎年７月頃に小沢平登山口において、大人数での駆除作業を行っています。今年は、福島県と新潟県の行政機関やガイド協会、ボランティアなど総勢40名を超える方達と協力しながら、約２時間作業を行いました。

１～２メートルほどの高さに生育しているオオハンゴンソウは根茎が頑丈で、素手で引き抜くことは到底できません。スコップやシャベルを使って、オオハンゴンソウを根絶やしにすべく、汗水垂らし泥まみれになりながらの作業でした。

駆除した量は昨年よりもかなり少なくなり、年々減ってきています。長期的な活動の成果が出ていることを実感できました。

７月作業の様子

▶経過観察で分かった相手の手強さ

朝晩冷え込むようになった10月初旬、経過観察のため現場を確認しに行きました。

「あれだけ夏に頑張ったのだから、そんなに生えていないだろう。」そんな我々の期待は露知らず、オオハンゴンソウの幼株達が葉を広げて、お出迎えしてくれました。あっちにも、こっちにも！こんなに大きくなっているなんて！見つけるたびに、眉間のシワが深くなります。約２時間、駆除作業を行いました。

オオハンゴンソウとは、今後も長い長い戦いが続くのだと覚悟しました。

７月駆除物

▶私たちにできること

オオハンゴンソウに限らず外来植物は、一度侵入してしまうと駆逐するのに多大な労力と時間がかかります。また、在来の植物の生育を妨げ、生物の多様性が失われてしまいます。

尾瀬に入山される際には、入山口にある種子落としマットで靴裏の泥を落としましょう。みんなで尾瀬の自然を守っていきましょう。

経過観察

尾瀬ボランティア情報

このコーナーでは、尾瀬ボランティアの活動を紹介します。

「ありがとう尾瀬清掃活動」

今シーズン４回実施したありがとう尾瀬清掃活動には、尾瀬ボランティアより19名、企業ボランティアから５名（JA全農ミートフーズ様、KDDI様）、群馬県立尾瀬高校の生徒さんが参加する「かたしなおこし隊」と「尾瀬かたしなゼロカーボンパーク」より８名の皆様から参加いただきました。特に９月28日は参加者は３班に分かれて、尾瀬ヶ原全域にわたって清掃活動を展開しました。すれ違う多くのハイカーの方々から「お疲れ様です」という温かいお声がけをいただき、大変気持ち良く活動を行うことができました。

尾瀬沼での活動では、尾瀬沼一周の清掃活動のほか、沼尻の公衆トイレの清掃活動も行いました。参加されたボランティアの方には、環境に配慮した浄化設備をもつ尾瀬のトイレのしくみをご理解いただくよい機会となりました。

４回の清掃活動で回収されたゴミの多くが、菓子袋やティッシュ、ペットボトルやキャップなどが中心となりましたが、サングラスや帽子、マスクやタオルなど、落としたものがゴミとなるケースもあります。

尾瀬が発祥である「ごみ持ち帰り運動」が定着し、以前より落ちているごみの量は減ってはいますが、入山口啓発活動と同様に、ゴミ拾いボランティアという地道な活動を通じて、ごみゼロを目指した啓発をさらに広げて行きたいと思います。今後もご協力をお願いします。

「植生保護柵（防鹿柵）撤去作業」

多くのボランティアの参加を得て、10月11日（金）に研究見本園、10月26日（土）に大江湿原の植生保護柵（防鹿柵）の撤去作業を実施しました。柵の撤去にも多くの労力を必要としますが、尾瀬ボランティアをはじめ、企業ボランティアとして利根郡信用金庫様、東京電力パワーグリッド様、群馬トヨペット様を含めて総勢35名の方々から作業にご協力いただきました。撤去作業の合間には、湿原の草紅葉や錦色に彩られた至仏山の紅葉、黄金色の三本カラマツがたたずむ大江湿原の初冬の景色など、この時期ならではの風景も楽しむことができました。

ニホンジカの侵入による湿原の貴重な植生の保護を目的として柵の設置が行われていますが、柵内におけるニッコウキスゲの開花株が増加するなど、一定の効果が見られています。柵はこれから約半年間の長い冬の眠りに入り、来シーズンの雪解けに合わせて再び設置され、尾瀬の植生保護に生かされます。今シーズンご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。

「尾瀬自然解説ガイド」

尾瀬保護財団の尾瀬自然解説ガイドは、今シーズン16回を催行し、31人のお客様にガイドを行っていただきました。尾瀬入山が初めてのお客様も多く、平均すると１回当たり２～３人という少人数でのガイドです。尾瀬自然解説ガイドは、隔年開催のインタープリテーション研修とお話ボランティア、環境学習ミニガイドツアーを行った方が養成研修を経て登録されています。尾瀬のビギナーからリピーターまで幅広く自然解説を行っていただいており、参加したお客様からは大変好評を得ています。

本年度は、通信研修と２日間の養成研修を経て、３名の方が新たに加わりました。尾瀬ボランティア活動や個々の活動から得た知識や経験を活かし、活躍いただくことを期待しています。

来年度はインタープリテーション研修を開催する予定です。関心のある方はぜひ事務局にお気軽にお問い合わせください。

寄付のお願い

— 美しい尾瀬を未来に引き継ぐために、
皆さまからのご支援をお願いします —

尾瀬保護財団は、尾瀬国立公園をフィールドに「尾瀬での体験と感動を、自然を守る力に変える」をミッションに掲げて関係者と連携しながら、さまざまな活動を展開しています。
当財団の活動は、皆さまからのご寄付によって支えられています。

■ **所得税、法人税、個人県民税、個人市町村民税について**
尾瀬保護財団へ寄付をすると優遇措置が受けられます。「税制上の優遇措置について」欄をご参照ください。

■ **特別協賛寄付・協賛寄付について**
企業・団体の皆様とより良いパートナーシップを築けるよう、特別協賛寄付、協賛寄付の制度を設けています。

■ **寄付の方法**
当財団へご寄付いただく場合は、財団事務局へご来訪いただくか、ご連絡の上、下記口座にお振込をお願いいたします。

福 島 県	東邦銀行県庁支店	普通 1078095
群 馬 県	群馬銀行県庁支店	普通 0515428
新 潟 県	第四北越銀行県庁支店	普通 1182791

※振込手数料は寄付者のご負担となります。何卒ご了承ください。
※以下の口座を廃止いたしました。お振込の際には十分ご注意ください。
・大東銀行福島支店口座　・福島銀行本店営業部口座
・東和銀行本店営業部口座　・第四北越銀行(旧北越銀行)新潟県庁支店口座
・大光銀行新潟支店口座

■ **注意事項**
ご寄付の受領後、領収書等を作成・送付させていただきます。
ご住所及びご芳名が不明な場合、必要書類をお届けすることができません。必ず財団事務局へご一報ください。

■ **お問い合わせ先**　公益財団法人尾瀬保護財団事務局（寄付担当）　TEL：027-220-4431　Mail：info@oze-fnd.or.jp

【税制上の優遇措置について】

いつもあたたかいご支援をいただき、ありがとうございます。
当財団へのご寄付に対する「税制上の優遇措置」について、補足いたします。

●個人住民税（県民税・市町村民税）の対象自治体　当財団が県民税・市町村民税の控除対象として指定を受けている自治体は次のとおりです。
・個人県民税：福島県、群馬県　・個人市町村税：福島県富岡町、群馬県前橋市、群馬県高崎市、群馬県桐生市、群馬県片品村

●住民税の寄付金控除額の計算方法【対象：個人の寄付者】　対象自治体にお住まいの個人が当財団にご寄付をされた場合、住民税の税額控除を受けることができます。
{次の（1）または（2）のいずれか低い金額－2000円}　×市区町村税6％＝寄付金控除額
{次の（1）または（2）のいずれか低い金額－2000円}　×都道府県税4％＝寄付金控除額
（1）その年の該当自治体の条例指定寄付金の額の合計額、（2）その年の総所得金額等の30％相当額

●所得税の寄付金控除額の計算方法【対象：個人の寄付者】当財団にご寄付をいただいた場合、所得税の税額控除または所得控除を受けることができます。
【税額控除】　{次の（1）または（2）のいずれか低い金額－2000円}　×40％＝寄付金控除額
（1）その年に支出した特定寄付金（※1）の額の合計額、（2）その年の総所得金額等の40％相当額
【所得控除】　{次の（1）または（2）のいずれか低い金額－2000円}　＝寄付金控除額（※2）
（1）その年に支出した特定寄付金の額の合計額、（2）その年の総所得金額等の40％相当額

●法人税の優遇措置（損益算入）の計算方法【対象：法人の寄付者】
当財団にご寄付をいただいた場合、国や地方自治体への寄付、一般の団体への寄付とは別枠で損金に算入することができます（併用して算入可）。
当財団へのご寄付については、次の（1）または（2）のいずれか低い金額を損金に算入することができます。
（1）特定公益増進法人に対する寄付金の額の合計額、（2）特定公益増進法人に対する寄付金の特別損金算入限度額（★）
（★）（資本等の額×3.75／1000×事業年度の月数／12＋当該事業年度の所得金額×6.25／100）×1／2
（※1）国または地方自治体、特定公益増進法人等に対して行った寄付金のことです。（※2）所得税の25％相当額が控除限度額になります。

特別協賛寄付者のご紹介

※10月25日現在、五十音順、敬称略

糸井商事
糸井ホールディングス
糸井商事株式会社
通算寄付額　10,800,000円

心の産業グループ
エコ計画
環境・食・貢献をテーマに!
株式会社エコ計画
通算寄付額　9,000,000円

「運ぶ」を支え、環境と未来をひらく
ISUZU
関東いすゞ自動車株式会社
通算寄付額　1,200,000円

群馬トヨペット
群馬トヨペット株式会社
通算寄付額　2,449,230円

株式会社ジーシーシー
株式会社ジーシーシー
ジーシーシー通算寄付額　900,000円

一生涯のパートナー
第一生命
Dai-ichi Life Group
第一生命保険株式会社群馬支社　通算寄付額　2,732,920円

Asset Management One
アセットマネジメントOne株式会社
通算寄付額 44,830,964円
投資の力で未来をはぐくむ

尾瀬紀行

尾瀬紀行（信託ファンド）で収受した信託報酬の一部をご寄付いただいております。平成19年より今回が18回目のご寄付となります。

通算寄付額　89,661,927円

群馬銀行
私たちは「つなぐ」力で地域の未来をつむぎます
株式会社群馬銀行
通算寄付額 40,660,920円(※)

（※）尾瀬紀行（ぐんぎん証券様分）、横断幕寄付、ぐんぎんSDGs私募債、株主優待制度『寄付コース』、その他財団設立当初の一般寄付を含む。

第四北越銀行
DAISHI HOKUETSU BANK
株式会社第四北越銀行　通算寄付額　7,374,155円

第四北越証券
Daishi Hokuetsu Securities
第四北越証券株式会社
通算寄付額　2,021,059円

すべてを地域のために
東邦銀行
株式会社東邦銀行　通算寄付額　16,453,729円(※)
（※）尾瀬紀行（とうほう証券様分）を含む。

協賛寄付者のご紹介

※10月25日現在、五十音順、敬称略

伸間が広がる、絆が深まる
クラブツーリズム
クラブツーリズム株式会社
通算寄付額　2,088,000円

一般財団法人群馬県警察厚生会
通算寄付額　1,400,000円

群馬県ビルメンテナンス協同組合
通算寄付額　2,300,000円

GN 群馬日産自動車株式会社
群馬日産自動車株式会社　通算寄付額　1,200,000円

KDDI株式会社
通算寄付額　756,700円

SATA 佐田建設株式会社
佐田建設株式会社　通算寄付額　600,000円

Smile Park SMARK ISESAKI
スマーク伊勢崎
通算寄付額　1,750,000円

利根郡信用金庫
利根郡信用金庫　通算寄付額　4,045,390円

このまちの笑顔をふやそう。
とりせん
株式会社とりせん
通算寄付額　2,978,562円

NICHINEN
株式会社ニチネン　通算寄付額　1,800,000円

パティスリークリエーション
ガトーフェスタ ハラダ
株式会社原田　通算寄付額　300,000円

ひかり接骨院
通算寄付額　793,000円

その他の寄付者のご紹介

※令和６年６月１日～令和６年10月25日までの寄付者、五十音順、敬称略

板垣勇人、井瀧健、井奈波康貴、太田有紗、大野領一、神移壽司、公孫会北魚支部、桜井政子、佐々木雅寿、柴田慶子、株式会社高橋哲也建築計画、玉崎忍、永井譲次、檜垣真帆、平野佳奈、平野広治郎、割田甚一

◆◆◆◆◆匿名・ご芳名掲載辞退の寄付者の皆様にも、心より感謝申し上げます。◆◆◆◆◆

皆さまからのご寄付の使途について（尾瀬保護財団の主な活動）

皆さまからのご寄付は、旅行会社や登山者への普及啓発活動、ビジターセンターでの自然解説活動、公衆トイレや木道の維持管理、至仏山の環境保全対策、ニホンジカ対策、ツキノワグマとの共生、外来植物対策など、幅広い事業に役立てられます。

入山口啓発活動

至仏山登山道整備作業

シカ柵（ニホンジカ侵入防止柵）設置作業

自然解説活動（自然観察会）

木道の桟木打ち作業

特定外来植物（オオハンゴンソウ）駆除作業

はるかな尾瀬
公益財団法人 尾瀬保護財団機関誌
2024.12 令和6年12月25日発行
発行所：公益財団法人 尾瀬保護財団

表紙の風景

春、ゆったりと流れる下の大堀川の水芭蕉

初めての尾瀬山行は昭和36年６月の中旬であった。大清水に幕営、三平峠へ尾瀬沼の長蔵小屋に荷をデポし、俎グラから柴安グラ。ガスっていて見晴らしは効かなかったが鞍部の雪の多さに驚いた。下山後、沼尻から段小屋坂を下り見晴らしで幕営、翌朝は尾瀬ヶ原を渡り至仏山の森林限界まで往復、山の鼻から鳩待峠へ、重いザック背に戸倉まで歩いた。広々とした湿原の東西の燧ヶ岳と至仏山、対照的な山容が印象に残る。若さと体力の山行で咲き競う花々の記憶は微塵もない。社会人となり、尾瀬通いか始まり暫くして定点観測に興味を持ち下の大堀川のビューポイントと定めた。

年により季節により天候により時間によりその表情は多彩であり、同じ光景に出会えたためしがない。尾瀬通いが続くのは、常に期待に胸を膨らませ、ドキドキしながら新たな出会いを楽しんでいるからなのでしょうか。

尾瀬ボランティア　白澤滋民

「尾瀬ボランティア総会」を開催します！

本年度は前橋市にて開催します。総会後には６年ぶりの交流会も予定しておりますので、奮ってご参加ください。詳細は通知（送付済）をご確認ください。

●令和６年度　尾瀬ボランティア総会

開催日　2025年２月８日（土）
時　間　午後１時から午後４時30分まで
場　所　昌賢学園まえばしホール（前橋市民文化会館）
　　群馬県前橋市南町３丁目62番地１

クレジットカードで寄付ができます！

自宅や外出先で、簡単3ステップで寄付ができます！

手順　※詳細は当財団ＨＰをご確認ください。

❶ 右の２次元コードを読み取る
❷ 特設ページ上部の「寄付で尾瀬を支援する」をタップ
❸ 必要事項を入力

２次元コード

皆さまからのご支援をお願いします！！

友の会 コーナー

「友の会」は、豊かな尾瀬の自然を守る財団の活動を支援してくださる方々の集まりです。

《年会費》

個人	個人会員	1口　2,000円
個人	家族会員（家族会員と同居の家族）	1口　1,500円
個人	ユース会員（加入又は更新時に満22歳以下）	1口　1,500円
	賛助会員（企業・団体等）	1口 10,000円
	特別会員（企業等）	3年に渡る30万円以上の寄付または1回100万円以上の寄付

《加入・更新について》
財団ホームページでご確認ください。
https://oze-fnd.or.jp/ozg/fc/

《特典について》
友の会に加入された方には、以下の特典を提供させていただいております。

- **友の会会員バッジ進呈**（初回加入時のみ）、**各種資料送付**
- **財団機関誌**：郵送にてお送りします
- **宿泊割引**：尾瀬戸倉、檜枝岐村周辺宿泊割引（休日、祝祭日前等の除外日があります）
- **尾瀬周辺施設利用料割引**：入浴料割引

編集後記

尾瀬沼ライブカメラの位置が変わったのはご存じでしょうか。シーズンオフの今も、尾瀬沼越しの燧ヶ岳がいつでも見られます。アクセスする時は、『人が映っていたら怖いけど。。動物ぐらい映っていればいいのにな。』とドキドキします。積雪がないので、まだシーズン中のよう。今すぐにでも行けそうな気がします。財団HPからアクセスできますので、是非今の尾瀬、見てみてください。（佐々木）

OZE Mobile 情報配信中
スマートフォンサイト
●緊急情報　●お知らせ　●ライブ配信 など

尾瀬情報配信中
尾瀬の情報を随時発信します

尾瀬保護財団note
尾瀬に関するさまざまな記事を投稿します

〒371-8570 群馬県前橋市大手町1-1-1　TEL.027-220-4431／FAX.027-220-4421
ホームページアドレス https://oze-fnd.or.jp
X（旧ツイッター） https://x.com/oze_info　E-mail info@oze-fnd.or.jp

本誌は、再生紙と環境にやさしい再生植物油インキを使用しています。